

再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道防災課
担当課長名：鈴木 克宗

事業名：国道246号線 秦野IC関連	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 関東地方整備局	
起終点：自： <small>かながわけんはだのしはっさわ</small> 神奈川県秦野市八沢 至： <small>かながわけんはだのししょうぶ</small> 神奈川県秦野市菖蒲	延長：0.75km		
事業概要 秦野IC関連は、第二東海自動車道と国道246号を接続するための道路事業です。第二東海自動車道は首都圏と中京圏を結ぶ社会経済活動を支える延長約298kmの高速道路であり、秦野IC関連が整備されることにより、秦野市域の国道246号周辺から第二東海自動車道へのアクセスが確保されます。また、第二東海自動車道、厚木秦野道路、さがみ縦貫自動車道の広域的に形成された自動車専用道路ネットワークと接続されることによって、これらの地域の経済・文化・産業の発展に寄与します。			
H13年度事業化	H8年度都市計画決定	用地（未着手）	
全体事業費：約51億円	事業進捗率：約2%	供用済延長：0km	
計画交通量：9,500台/日			
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 4.6 (残事業) 4.7 総費用：(残事業)/(事業全体) 39.0/40億円 (事業費：36.0/37億円) (維持管理費：3/3億円)	総便益：(残事業)/(事業全体) 182.0/182億円 (走行時間短縮便益：156/156億円) (走行費用減少便益：17/17億円) (交通事故減少便益：9/9億円)	基準年：平成17年
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（年間渋滞損失時間の削減、羽田空港へのアクセス向上が見込まれる） ・物流効率化の支援（横浜港へのアクセス向上が見込まれる） ・災害への備え（秦野市内の国道246号が第二東海自動車道、厚木秦野道路の代替路を形成する） 他8項目に該当			
関係する地方公共団体等の意見 秦野IC関連に係る第二東海自動車道で、早期整備の要望（平成17年7月14日）を受けている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ブレインヒル柿の木原開発構想の一部区域が土地区画整理事業として進行している。 道路では第二東海自動車道に施行命令が出されており、地域の発展が期待されている。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 関係機関との協議を進め、第二東海自動車道の進捗に併せ、設計、用地買収及び工事を促進する。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 第二東海自動車道の開通時期を踏まえ、連携を取りながら計画的に事業を実施する。			
施設の構造や工法の変更等 コスト縮減に資する調達方法の採用や新技術の積極的な活用を図る。			
対応方針 対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。			
事業概要図 			

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。